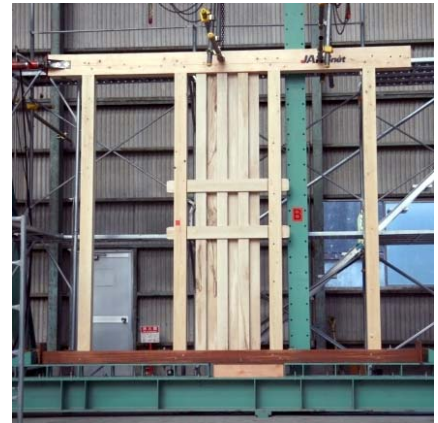


耐力壁の強さを競い合う「木造耐力壁ジャパンカップ」 環境配慮の機能美を追求した『紬(つむぎ)』で総合優勝!

株式会社アキュラホーム(社長:宮沢俊哉 本社:東京都新宿区)は10月8日(土)~10日(月)に開催された第14回木造耐力壁ジャパンカップにおいて、東京大学大学院木質材料学研究室、篠原商店と共同開発(チーム名:チーム匠)した耐力壁「紬(つむぎ)」で、総合優勝を果たしました。また部門賞として「施工加工部門賞」も受賞しました。

当社は、木造住宅における安全安心と品質向上の研究活動の一環として、産学共同(アキュラホーム+東京大学木質材料学研究室+篠原商店)で耐力壁の研究を行っており、その成果を検証する場として、同大会に平成17年より参加しています。

この結果をもとに、今後も継続的な研究を続け実用可能な強度の高い耐力壁開発に活かしていきます。



耐力壁「紬(つむぎ)」

■耐力壁「紬(つむぎ)」

「紬(つむぎ)」は、接合部に長ほぞを採用し、伝統工芸のはたおりをイメージして、間柱を桁と平行に互い違いに配するデザインで、壁でありながら風と光を通すことができます。

木造軸組みの伝統工法の知恵を活かし、釘やビス、ボルトなどの金物を一切使用せずに、耐力壁としての剛性、靱性を保持。施工性にも優れています。当社の環境への取組みの一環として、環境配慮と実用性をかねた機能美を追求した耐力壁です。

最大荷重: 48.35kN(大会公式記録) ※1kN=0.102t、約5.0t。

共同研究: 東京大学大学院木質材料学研究室 篠原商店

明確なコンセプトのもと、高い意匠性を持ちあわせ、強さだけではないベストバランスの耐力壁となりました。

トーナメント戦を勝ち抜くために、金物などを多用して強度を追求していくと、環境部門、加工・施工部門などでのポイントに影響するために、この二つを両立させることは難しいといわれていました。今回の「紬」は、トーナメントでは準決勝で敗退こそしましたが、金物を一切使わずに48kNという大きな荷重に耐え、来場者からは驚きと感嘆の声が聞こえました。木材の加工や接合部の工夫においても大変な注目を集めました。

■木造耐力壁ジャパンカップ

木造住宅の耐力壁の強さなどを競い合う木造耐力壁ジャパンカップは、阪神大震災の後、木造住宅の構造耐力向上、伝統工法の継承を目的として、NPO 法人木の建築フォーラムが主催しスタートした大会で、毎年、大学、専門学校、住宅関連企業、設計事務所などが参加しています。今年は、10月8日(土)~10月10日(月)に静岡県富士宮市の日本建築専門学校にて開催され、16体の耐力壁が出場し熱戦を繰り広げました。大会はトーナメント戦を勝ち抜いた最も強度の高い耐力壁に贈られる“トーナメント優勝”と、強さ(耐震評点)に加えて、環境負荷費、デザイン評点、材料費、加工費、施工費による総合的に優れた耐力壁に贈られる“総合優勝(ジャパンカップ)”の2つのタイトルがあります。

<本件について報道関係からのお問い合わせ先>

株式会社 アキュラホーム 広報課 堀越・長谷川

Email: horikosi@aqura.co.jp

住所: 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル34F TEL:03-6302-5010 (直通) FAX:03-5909-5560

ホームページ: <http://www.aqura.co.jp>